

1年	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に発言をする生徒が多い反面、スムーズな音読ができない生徒が多い。 ・漢字を書く・読むことに対して苦手意識をもっている生徒も多く、総じて国語の教科自体を苦手とする生徒の割合は、都の割合より多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習のドリルを長期休業中の課題にし、平常授業では小テストを定期的に行う。定期考査でも出題。反復し定着させ、語彙数の増加を図る。 ・授業では速く読む目のトレーニング(スピード音読)を継続して行う。読むことの抵抗をなくすことが教科の苦手意識を緩和すると考える。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「関心意欲」を持って、調べ方を考え＝「思考」、まとめる＝「技能」、そして「知識」を増やす力を付ける。 ・小学校段階における、社会事象に関する基礎知識が不足していたり、偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野では地図帳や地球儀を活用し、歴史的分野では資料や実物など視覚的教材を多く活用することで、社会科がより身近な事象であることを認識させ、考察させる。 ・小テスト、単元テストの実施
数学	<ul style="list-style-type: none"> 【主体的な学び】習熟度が低い生徒と習熟度が高い生徒との差がみられる。全体的に家庭学習の時間が少ない。 【知識・技能】言語の意味などを理解し、問題を解くことが苦手とする生徒が多くみられる。習熟度の低い生徒は基本的な計算問題を解く力の定着に課題がある。 【思考力・判断力・表現力】文章を読み、関係をつかむ問題を苦手とする生徒が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体的な学び】授業内で発言する機会をつくり、他者の考え方を知り、自分で考える機会をつくる。単元毎に学びを振り返る機会を設ける 【知識・技能】自分で問題を解く時間を授業内で多くつくる。その復習を家庭学習につなげられるように課題を指示する。 【思考力・判断力・表現力】発展的な問題を取り組み、自分で考える機会をつくる。その後グループで話し合い、伝え合っていく中で課題を解決していく力を育む。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 【基礎基本の確認】 ・授業に参加しようとする意識が感じられるが、ノートを書くことができない、宿題を期日までにやれないなど、学習の習慣ができていない生徒もいる。 ・実験に対しては、興味・関心は高いが、知識の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに練習問題を入れ、単元が終わるごとに演習を行う。授業の中で課題に取り組みせ、自分の考えを書かせる中で、科学的に考える思考力を高める。 ・記述式対策として話し合い活動を行い、発表・発言を通して情報を共有化して高めていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 【基礎基本の確認】 ・基礎基本の徹底のために毎回の授業で基本文の確認を行っている。 【単元内容を用いたコミュニケーション】 ・単元の文法指導項目に沿った言語活動を繰り返し行うことで、コミュニケーションに使える英語の定着を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【基礎力の定着】 ・言語活動において、状況に欠ける場面があるので、実際の使用場面を想定させるような設定をする。 ・授業中、教科書やノートを出さずに授業を受けようとする生徒がいるので、学力向上支援講師や他のサポートで入る職員と協力して個別にきめ細かいケアや指導をしていく。
美術	<p>中学校では、小学校の図画工作と異なり、造形的な視点の理解や計画的な制作が必要になるが、小学校では、身につけていないため、まずはその基礎基本の習得を図る指導をする。また、授業のルールを守らせ、しっかりした授業規律を確立する。</p>	<p>わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進める。作品制作では、完成後は十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保する。常に授業規律が守られるように指導を継続していく。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱の経験が少なく、声の出し方がつかめていない。 ・鑑賞で音色の違いを聴き取ることやイメージと結びつけて聞き取ることが弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の解説や図を使って視覚的に捉えられるようにし、範唱をもとに聞き比べを行い、発声が身につくようにしていく。 ・具体例を挙げたり、聞き取りやすい音を使って練習してから実際に曲や音をきかせる。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の制限のため、小学校高学年時に持久走や水泳、球技等、制限された中で実施されていた影響もあり、全体を通して基礎体力が身につけていない生徒が多い。 ・耳から得た情報や指示を、理解するまでに時間がかかる。 ・主体的に自ら考え、積極的に行動する生徒が少ないように感じる。幼い生徒が多く生活面の指導から必要な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力向上のため、毎時間の授業でのトレーニングを徹底して行う。 各単元においても、基本練習の時間を長く儲け、基本技能の習得を目標とし取り組む。 ・学習カードや、ホワイトボード、タブレット機器などをうまく使い分け、視覚的にも指示を捉えられるようにし、理解力の向上を図る。 ・グループ学習や班による活動を通して、話し合いや意見交換をさせ、主体的な活動ができるようにする。
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> 【理解力の向上】(技術) ・理解力の差が大きく、作業の進め方に個々の力量に差が生じ、全体指導に影響を及ぼしている現状がある。 【知識・技能の習得】(家庭) ・技術面での差が大きいため苦手な生徒には、時間をかけて指導するなど、細かな指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 【基礎的・基本的知識の充実】(技術) ・材料の特性や特徴を学ばせ、製図の読み書き等を定着させる。 【班別作業の充実】(技術) ・班ごとに作業を進め、工具の使い方等を実演して見せたりしながら、見本用に製作した作品を見せて意欲を高めたりしながら、技術の向上につながるようにする。 【個に応じた作業環境作り】(家庭) ・製作等が苦手な生徒に対して、グループ学習等でお互いに教え合うような形態を工夫する。